

東奥信用金庫

地域内企業の業況レポート

No. 125
2024年4～6月期

本レポートは、情報提供のみを目的とした当金庫の意見です。

当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこの資料は作成されていますが、この情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

〒036-8182 弘前市大字土手町81
TEL 0172-33-8404 業務部 -2024.7.31-
HP <https://www.shinkin.co.jp/toshin/>

《今回調査のポイント》

● 4～6月期（今期）業況判断DI値 改善で推移

4～6月期の業況判断DI値は、前回調査比21.4ポイント上昇の▲2.1と改善し、前回予想値(3.8)に対しては5.9ポイント低下する結果となった。項目別では、売上・受注で30.4ポイント上昇の2.1、売上数量も27.9ポイント上昇の▲2.1、利益でも22.1ポイント上昇の▲7.2と全項目で改善となった。

今期DI値は前期に比べやや改善となったが昨年同月には至っていない。さくら祭り・ゴールデンウイークなどのイベントからDI値は飲食業、サービス業がプラスに転じたものの、他業種はマイナスで推移。建設業・小売業を主に「材料・仕入価格の上昇」、「人員不足」等が経営上の問題点としてあげられており、経営環境は厳しい状況が続いている。



業況お天気図

● 7～9月期（来期）各項目別DI値 やや悪化を見込む

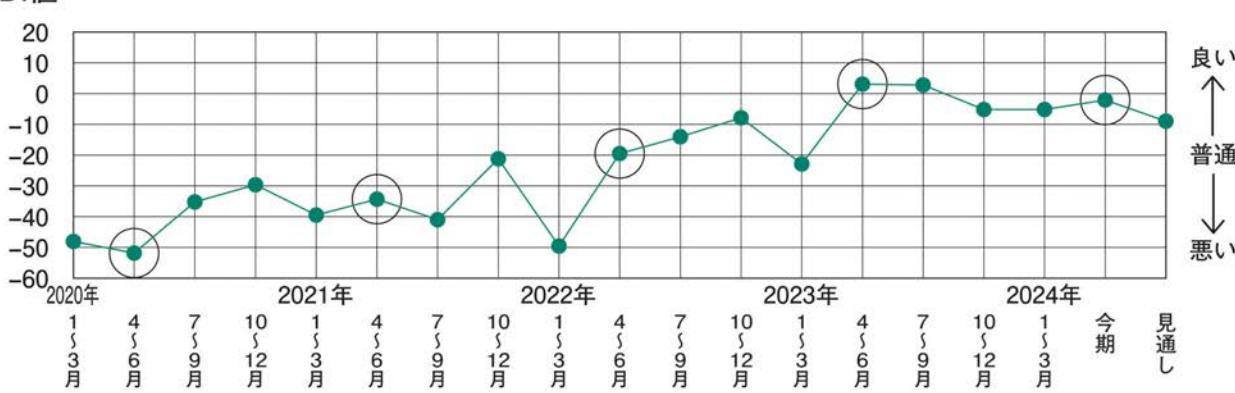
7～9月期の見通し業況判断DI値は、今回調査比6.9ポイント低下の▲9.0とやや悪化の予想となった。項目別では、売上・受注で9.0ポイント低下の▲6.9、売上数量も6.9ポイント低下の▲9.0、利益でも4.2ポイント低下の▲11.4と全ての項目でやや悪化の見通しである。

ねぶた祭りや夏休みシーズンを迎える期待感はあるものの、DI値は3業種で改善し、5業種で悪化を見込んでいる。物価高の影響は大きく、加えて「給水光熱費」「燃料費」の高騰が経費を圧迫している事から利益確保が難しい状況。さらなる価格転嫁を迫られる事業者や人材不足を訴える事業者など、各事業者とも課題を抱えている状況。



業況予想お天気図

全業種業況判断DI値の推移



お天気図



(お天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。)

全業種総合

回答企業数290企業（回答率100.00%）

概況

～総合的業況判断DI値 改善で推移～

総合的業況判断DI値は、前期比21.4ポイント上昇の▲2.1と改善となった。

業種別での業況判断DI値は、飲食業が42.1ポイント上昇の36.8、サービス業も33.3ポイント上昇の11.9、建設業は33.3ポイント上昇の0.0、小売業では16.5ポイント上昇の▲3.3、製造業が8.8ポイント上昇の▲9.4、不動産業は11.1ポイント上昇の▲11.1、卸売業も6.9ポイント上昇の▲27.6、運輸業は0.0ポイント横ばいの▲30.0となった。7業種が改善し、1業種に於いて横ばいとなった。2業種がDI値プラスに転じた。

～経営上の問題点～

業種全体で「材料仕入価格の上昇」149先、「人員不足」92先、「売上の低迷・減少」90先、「経費の増加」77先、「利幅の縮小」65先と上位を占めた。

前回調査比、「材料仕入価格の上昇」は48先増加、「人員不足」が5先減少、「売上の低迷・減少」は4先減少、「経費の増加」は21先増加、「利幅の縮小」は6先減少となった。

設備投資計画では、「予定あり」とした企業が38先、前期比1先増加、設備投資実施予定期割合は13.1%と前期比0.3%増加した。業種別では、サービス業(土地・建物・機械等)21.4%、運輸業(その他)20.0%、飲食業(土地・建物・機械等)15.8%、建設業(土地・機械等)13.8%、製造業(土地・建物・機械等)12.5%、卸売業(土地・建物・機械等)10.3%、小売業(土地・建物・機械)9.9%、不動産業は計画なしとなった。

資金繰りDI値は、前回調査比7.6ポイント上昇の▲10.3とやや改善、今期借入した企業は17.9%と前回調査時(17.6%)より0.3%増加となった。

来期の見通し

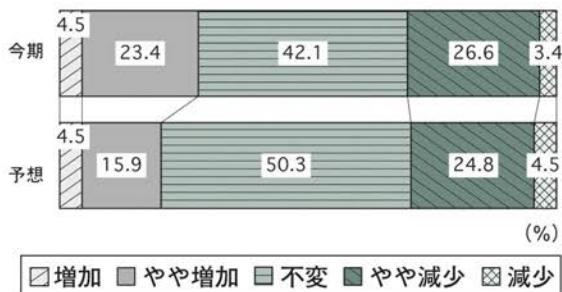
～総合的業況判断DI値 やや悪化の見通し～

各業種の見通し業況判断DI値は、今回調査比6.9ポイント低下の▲9.0とやや悪化の予想となった。

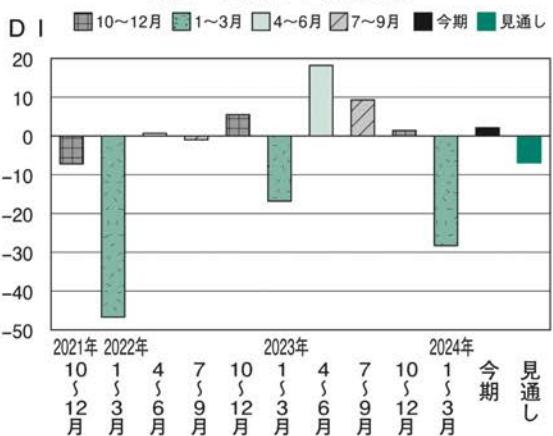
業種別では、飲食業が21.0ポイント低下の15.8、建設業は8.6ポイント上昇の8.6、不動産業も11.1ポイント上昇の0.0、サービス業は21.4ポイント低下の▲9.5、小売業も6.6ポイント低下の▲9.9、製造業でも9.4ポイント低下の▲18.8、運輸業は10.0ポイント上昇の▲20.0、卸売業では17.2ポイント減少の▲44.8となり来期の見通しは3業種で改善し、DI値は2業種がプラスを見込んでいる。

今期資金手当てした先が17.9%、今後資金手当て等借入を予定している先は17.9%となっている。

業況判断（全業種）



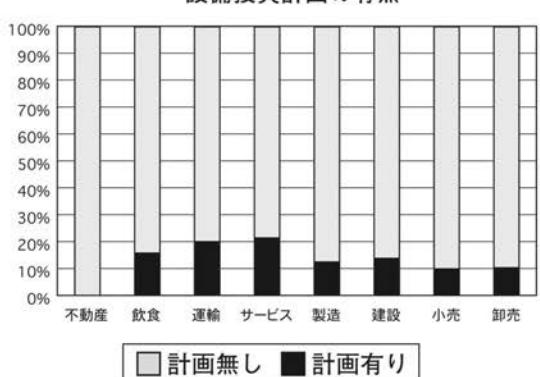
売上・受注DI値の推移



各DI値の推移



設備投資計画の有無



卸売業

回答企業29企業

概況

～業況判断DI値 やや改善で推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比6.9ポイント上昇の▲27.6とやや改善したが、前回調査予想値(0.0)を大きく下回る結果となった。項目別では、売上・受注で10.3ポイント上昇の▲17.3、売上数量は17.3ポイント低下の▲48.3、利益でも13.8ポイント低下の▲34.5となった。

さくら祭りやゴールデンウイークの人気による消費拡大に期待感あったが、仕入・原材料価格や燃料費・電気代の高騰もあり業況は低迷した。

分野別の状況

～総合的業況は悪化で推移～

鮮魚卸売は漁獲高の減少や大手スーパーの倒産等の影響等を受け、売上高・利益とも減少傾向にある。

建設資材卸売業は、資材高騰が続いているが、売上高も減少傾向となり、利益確保が難しい状況。

主力商品であるりんごについては、品薄から仕入価格、販売価格とも高値で推移。売上高は減少しているが、利益確保が見込まれているものの、運賃や資材高騰の影響もあり減少傾向。

来期の見通し

～業況判断DI値 悪化の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比17.2ポイント低下の▲44.8と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で13.7ポイント低下の▲31.0、売上数量は3.5ポイント上昇の▲44.8、利益でも13.8ポイント低下の▲48.3と悪化の見込みとなった。

食品・アルコール類は夏祭りやイベントへの期待感もあるが、総体的には各業種とも業況は厳しい見通しとなる。

業況判断DI値の推移



小売業

回答企業91企業

概況

～業況判断DI値 やや改善で推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比16.5ポイント上昇の▲3.3、前回調査予想値(▲3.3)と同様の結果となった。項目別では、売上・受注で17.6ポイント上昇の▲6.6、売上数量が15.4ポイント上昇の▲9.9、利益でも17.6ポイント上昇の▲12.1となり、すべての項目で改善となった。

さくら祭りやゴールデンウイークの影響もあり、食料品・アルコールを主体に好調に推移した。

分野別の状況

～総合的業況はやや改善で推移～

酒類小売業は、さくら祭りやゴールデンウイークの影響を受け売上高は好調に推移した。

衣料品やスポーツ店においては、児童減少の影響から学校指定のジャージ等の売上が年々減少している。

洋菓子販売は、さくら祭り期間中観光客を中心に、アップルパイの売上が好調であった。

燃料等小売業は、灯油の需要期が終了し総じて低調に推移している。

来期の見通し

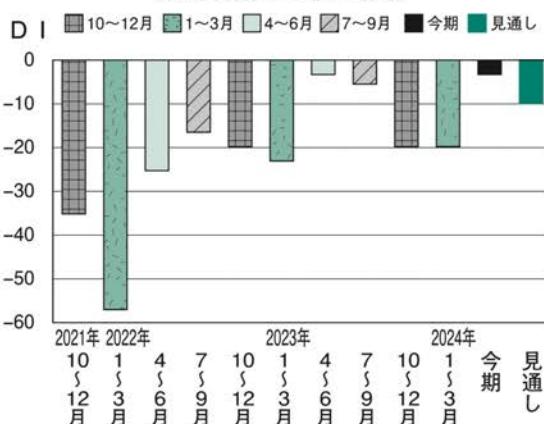
～業況判断DI値 やや悪化の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比6.6ポイント低下の▲9.9と、やや悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で2.2ポイント低下の▲8.8、売上数量は1.1ポイント上昇の▲8.8、利益でも3.3ポイント上昇の▲8.8となった。

祭りや夏休みシーズンを迎えるにあたり、各事業者とも期待感を持っているものの、物価上昇による消費低迷を見込んでいる状況。

業況判断DI値の推移



建設業

回答企業58企業

概況

～業況判断DI値 大幅改善で推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比33.3ポイント上昇の0.0と改善、前回調査予想値(1.8)は下回る結果となった。項目別では、売上・受注が52.5ポイント上昇の8.6、売上数量も52.5ポイント上昇の8.6、利益でも30.0ポイント上昇の▲12.1となった。すべての項目で大幅改善となった。

受注工事に於いては業者間の格差見られるものの、およそ例年並みの動き。資材価格高騰は継続しており利益確保に影響している。

分野別の状況

～総合的業況は大幅改善で推移～

板金工事や土木工事は堅調に推移している。

造園工事業は、固定客を中心に戸建の取り外しや庭木の手入等売上増となるが、固定客の減少が続いており受注確保が厳しい状況となっている。

一般住宅において建築費高騰から新築物件の契約率低下が見られ、リフォーム工事が増加傾向となる。

来期の見通し



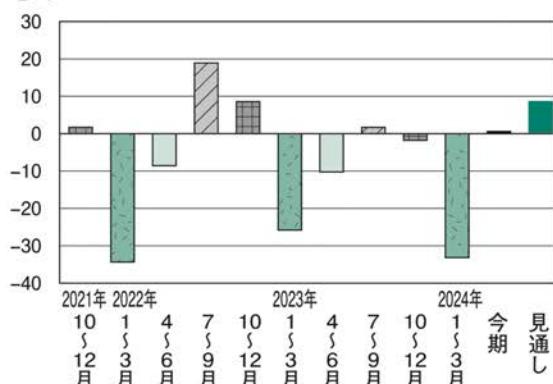
～業況判断DI値 やや改善の見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比8.6ポイント上昇の8.6と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で▲5.1ポイント低下の3.5、売上数量も10.4ポイント低下の▲1.8、利益では6.9ポイント上昇の▲5.2となった。

一般住宅の受注状況は回復傾向が見込まれているものの、人員不足をあげる事業者多く、人材・下請先確保に注力している。

業況判断DI値の推移

D I ■ 10~12月 ■ 1~3月 ■ 4~6月 ■ 7~9月 ■ 今期 ■ 見通し



製造業

回答企業32企業

概況



～業況判断DI値 やや改善で推移～

今期の業況判断DI値は、前回調査比8.8ポイント上昇の▲9.4とやや改善し、前回調査予想値(6.1)は下回る結果となった。項目別では、売上・受注で27.6ポイント上昇の9.4、売上数量も24.4ポイント上昇の6.2、利益でも24.6ポイント上昇の9.4と全ての項目で改善となった。

さくら祭りやゴールデンウイークがあり食品関連は好調に推移。

分野別の状況

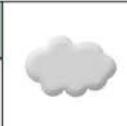
～総合的業況 やや悪化で推移～

衣料縫製業では女子制服用スラックスズボンの受注が好調に推移。ハイブランド関連も受注安定。

原材料を輸入に頼る食品製造業に於いては、価格転嫁による値上がり、販売数量の減少につながった。

生コン製造業者では建設業者が動きだした事により売上増加傾向。4月より価格値上により適正な利益確保。

来期の見通し



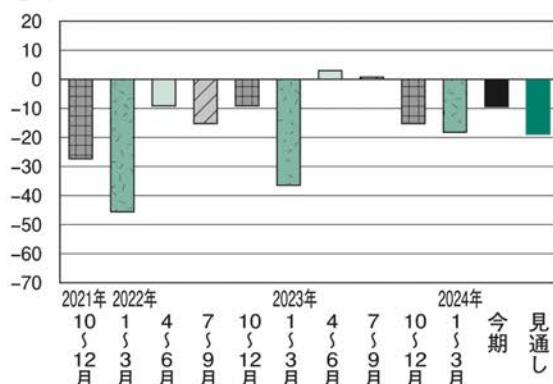
～業況判断DI値 やや悪化の見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比9.4ポイント低下の▲18.8とやや悪化の見通しである。項目別では、売上・受注では21.9ポイント低下の▲12.5、売上数量も19.1ポイント低下の▲12.9、利益でも25.0ポイント低下の▲15.6と、項目別でも悪化の見通しとなった。

製造業では「材料・仕入価格上昇」や「売上の低迷・減少」を懸念している先が多く、不安な見通しとなった。

業況判断DI値の推移

D I ■ 10~12月 ■ 1~3月 ■ 4~6月 ■ 7~9月 ■ 今期 ■ 見通し



サービス業

回答企業42企業

概況

～業況判断DI値 大幅改善で推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比33.3ポイント上昇の11.9と大幅改善となったが、前回調査予想値(19.0)は下回る結果となった。項目別では、売上・受注で38.1ポイント上昇の11.9、売上数量も42.9ポイント上昇の14.3、利益でも35.7ポイント上昇の9.5と項目別でも大幅改善となった。

宿泊業では、春の行楽シーズンや円安に伴うインバウンドの増加により、例年同時期と比べやや増加傾向にあった。

分野別の状況

～総合的業況大幅改善で推移～

宿泊業ではインバウンドが増加し、祭りや大型連休も相まって好調に推移した。来期も祭り本番を迎える見込み。

自動車関連は、板金修理は減少しているが、車検・車両修理は堅調に推移。人員不足を抱えている事業者が増加している。

来期の見通し

～業況判断DI値 悪化の見通し～

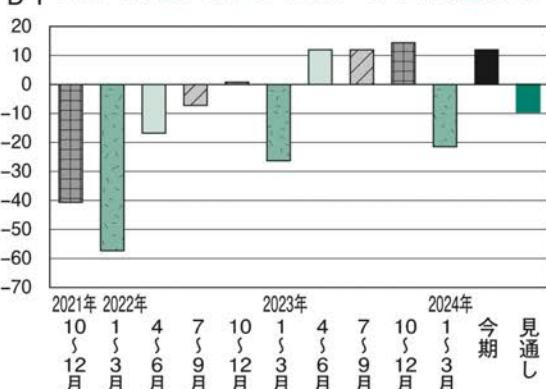


来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比21.4ポイント低下の▲9.5と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注では19.1ポイント低下の▲7.2、売上数量も14.3ポイント低下の0.0、利益でも14.3ポイント低下の▲4.8と各項目とも悪化の見通しとなった。

業種別では、夏休みや祭りシーズンによる期待感があるものの、総体的には「原材料価格」や「人件費等」の高騰の影響もあり、悪化の見通しとなった。

業況判断DI値の推移

D I ■ 10~12月 ■ 1~3月 ■ 4~6月 ■ 7~9月 ■ 今期 ■ 見通し



運輸業

回答企業10企業

概況

～業況判断DI値 横ばいで推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比0.0ポイントの▲30.0と横ばい、前回調査予想値(▲20.0)は下回る結果となった。項目別では、売上・受注で40.0ポイント上昇の▲10.0、売上数量も50.0ポイント上昇の▲10.0、利益では40.0ポイント上昇の▲20.0の結果となった。

旅客については堅調、青果輸送については減少傾向、災害関連の受注もあり業者間の格差が見られる。燃料価格や人員不足は共通の課題となっている。

分野別の状況

～総合的業況は横ばいで推移～

旅客運送業は、さくら祭りの集客やツアーが増加し好調に推移。

貨物輸送は業者間の格差があり、燃料費高騰による価格転嫁が済んでいる業者は利益確保されているが、価格転嫁が出来ていない業者は厳しい状況。

りんごの数量減少の影響があり、りんご輸送については前年を下回る事業者が多く見られた。

来期の見通し

～業況判断DI値 やや改善の見通し～

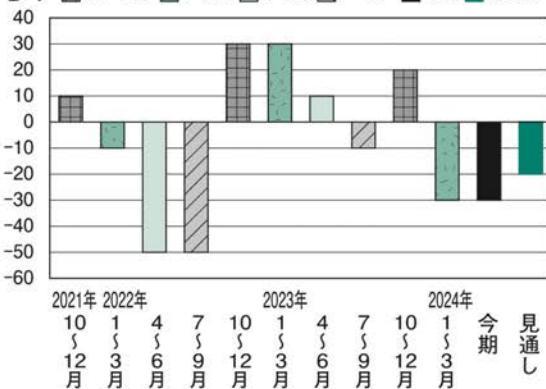


来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比10.0ポイント上昇の▲20.0とやや改善の見通しである。項目別では、売上・受注が横ばいの▲10.0、売上数量も横ばいの▲10.0、利益でも横ばいの▲20.0となった。

来期は野菜類の輸送が主力となるが、りんごの長距離輸送も本格化する時期となる事から改善を見込んでいる。

業況判断DI値の推移

D I ■ 10~12月 ■ 1~3月 ■ 4~6月 ■ 7~9月 ■ 今期 ■ 見通し



飲食業

回答企業19企業

概況

～業況判断D I 値 大幅改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比42.1ポイント上昇の36.8と大幅改善、前回調査予想値(31.6)も上回る結果となつた。項目別では、売上・受注で36.8ポイント上昇の26.3、売上数量も47.4ポイント上昇の31.6、利益でも26.4ポイント上昇の5.3と各項目で改善した。

さくら祭りやゴールデンウイークの影響大きく売上は増加した。仕入価格、給水光熱費等の経費増加により利益は減少傾向。

来期の見通し



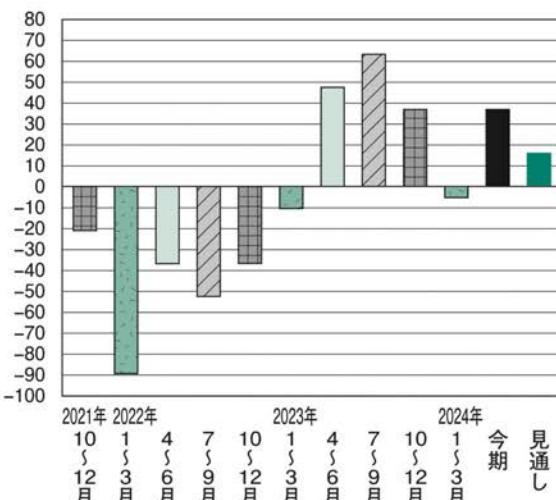
～総合的業況判断では悪化の見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比21.0ポイント低下の15.8と悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で15.8ポイント低下の10.5、売上数量も21.1ポイント低下の10.5、利益でも5.3ポイント低下の0.0と全項目でやや悪化の見通しとなつた。

ねぷた祭りや、お盆の帰省による期待感大きいものの、「材料費」「給水光熱費」が高止まりしており利益確保が課題となっている。

業況判断 D I 値の推移

D I ■ 10~12月 ■ 1~3月 ■ 4~6月 ■ 7~9月 ■ 今期 ■ 見通し



不動産業

回答企業9企業

概況



～業況判断D I 値 改善で推移～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比11.1ポイント上昇の▲11.1と改善、前回調査予想値(▲11.1)と同様の結果となつた。

項目別では、売上・受注で33.3ポイント上昇の0.0、売上数量は22.2ポイント上昇の▲11.1、利益でも33.3ポイント上昇の11.1と改善となつた。

物件の高騰により利幅も縮小しているが、管理業務などは例年並みに推移し、大きな変化は無かつた様子。

来期の見通し



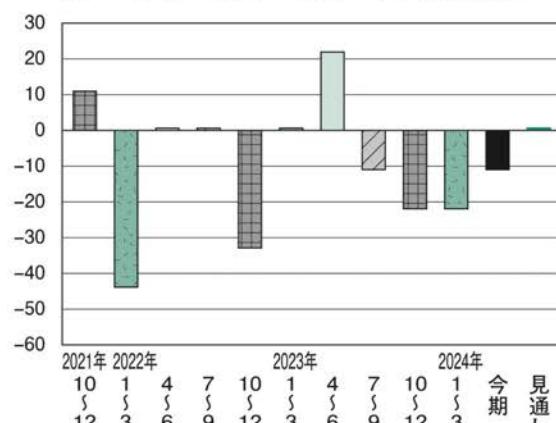
～総合的業況 横ばいの見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比11.1ポイント上昇の0.0とやや改善の見通しである。項目別では売上・受注で11.1ポイント上昇の11.1、売上数量が横ばいの▲11.1、利益でも横ばい11.1の見通しとなつた。

来期も物件価格は高騰が続く見通しであり、業況は横ばいを見込んでいる。

業況判断 D I 値の推移

D I ■ 10~12月 ■ 1~3月 ■ 4~6月 ■ 7~9月 ■ 今期 ■ 見通し



調査要領

- 調査時期 2024年6月下旬
- 調査地域 当金庫営業区域7市町村(弘前市、黒石市、平川市、五所川原市、大鰐町、藤崎町、田舎館村)
- 調査方法 上記地域内290社から当金庫営業店の調査員による聞き取り調査。
- 分析方法 各質問事項で、変化なしとした回答部分を除いて、「増加(上昇)」「やや増加(やや上昇)」したとする回答と、「減少(下降)」「やや減少(やや下降)」したとする回答の構成比との差(判断D.I.)を中心に分析を行った。